

タンチョウ博士のお話（第12回）

今回は季節ごとのタンチョウの暮らし方やタンチョウの寝る場所、天敵についての質問です。質問は、〔中小〕池亀伸さん、〔南小〕M.Sさん、〔西小〕石原ゆづきさん・Y.Rさん、〔舞小〕宮北美月さん、〔長高〕福島凜平さんなど20名の方からいただきました。

○夏は田舎の一軒家、冬は都会のマンション暮らし

夏は田舎の一軒家（別荘）に住み、周りの畑で育てた作物を味わいながら自然相手に暮らし、冬はすべてが雪で覆われて、除雪車も来てくれないから、町へ移って人々と共にマンション暮らしをする。優雅な生活をするヒトもいるものだ。

ぼくたちも、春から秋にかけて、毎年同じ田舎（湿地）へ夫婦で出かけ、うまくいけばヒナを育て、家族だけで夏をすごす。そこは他人が勝手に入れない家みたいなものだから、なわばり（テリトリー）と呼んでおこ。でも、秋になると、人里近くへ移り、集まって（群れで）暮らすようになる。

なぜなら、夏のあいだ暮らすところの多くは、冬になると地面も川も凍り、おまけに雪も積もって、餌がとれなくなる。反対に、人里近くには餌がいつもたくさんある給餌場がつけられ、おまけに、そばには凍らない浅い川や沼もある。

では、餌があるのは分かるけど、なぜ凍らない川や沼があるといいのだろう。一つめの理由は、冬でもそこで幼虫などの生きた餌を探せること。

二つめは、凍っていないから、水に入って夜眠る“ねぐら”にすることができるから。君たちは、水の中なんてかえって冷たいと思うだろうけれど、凍らない水の温度は零度以上だから、零下になるまわりの気温（たとえば、長沼町の昨年1月の最低気温はマイナス21.9℃）よりずっと暖かい。ぼくだって、寒いより少しでも暖かい方がいいんだ。

そして三つめに、水に入るのが苦手なキツネなど、天敵に襲われにくいからさ。

つまり、春-（夏）-秋のあいだは夫婦や家族だけで、秋-（冬）-春のあいだは群れで過ごすのが、今のぼくたちのふつうの暮らしだ。

では、群れでは、皆がごちゃごちゃに、混ざり合って過ごしているのだろうか。それとも、誰かがリーダーになり、それに従ってみんなが行動をしているのだろうか。

残念。そのどちらでもない。ぼくたちの群れには、リーダーとかボスなどと呼ばれる仲間はいない。夏に田舎で暮らしていたときの夫婦とか家族が、そのまま集まって暮らしているだけなのさ。だから、大きな群れの中でも、夫婦や家族のメンバーはいつもそばにいて（図1）、給餌場から飛んで行くときも来るときも、いっしょに行動しているよ。マンションにたくさんヒトがいても、それぞれが家族で暮らしているのと同じだ。

それでも、ヒトの場合、混雑したなかで、はぐれて迷子になることもある。同じことが、ぼくたちでも時々起きる。ヒトなら交番に届けるとか、場内放送などで探してもらうけど、そんなときぼくたちはどうするのか、いつか機会があったらお話ししよう。（文・写真：正富宏之）



図1群れの中の家族（左と中央の枠内）や夫婦（右の枠内）